特　集

親父へ

木　田　大　輔

大恩ある蛭川幹夫先生へ

令和元年８月某日，私は今簿記部の指導に連日明け暮れています。今年は非常に優秀な生徒が多く，２年生で先の６月の日商簿記検定１級に合格し，来年の税理士試験に向けて勉強している子や，次の11月の日商簿記検定１級，２級に向けて猛勉強している１・２年生がいます。まさに自転車操業の中，ふと「あれ，俺って夢叶っているな。いや，この子たちに叶えてもらっている…。」と最近強く意識します。

私は蛭川簿記塾の創設時の教え子です。当時，先生の日商１級の講座に足繁く通う私たちの姿を見て，先生が一念発起され，2003年４月，当時７名の部員と共にスタートしました。そこでの先生の方針は２点。①大学生は自分たちで調べてきて黒板の前で教え合うこと。②必ず，サークル旅行や飲み会は行うこと。どちらも戸惑いました。難解な日商１級を教える？見ず知らずの仲間たちと旅行？意味も解らぬままスタートしました。しかし，その時既に先生の教育の魔法にかけられていました。拙いながらも初めて黒板の前で簿記を教えることに，私は楽しさを覚えました。初めてのサークル旅行は水上に１泊でしたが，この日を境に今までよそよそしかった仲間が一気に仲良くなり，卒業までの毎日が非常に充実していました。私はこの頃よく先生に「木田は教師に向いているからなれ。」とよく言って頂いていました。正直，高校時代素行も悪くロクに勉強もしていなかった私に教師の選択肢など微塵も考えていませんでした。なぜ先生がそんなに薦めてくださるのか不思議に思い聞いてみた所，「君は高校時代素行も悪く，勉強も出来ないから，そういった生徒の気持ちがよく分かるからいい。」とおっしゃいました。変わったことを言う先生だなと思いました。普通，学校の教師は勉強が出来る人がなるものだと思っていたので。しかし，日々簿記塾で日商１級を教えていく内に「簿記を教える事を仕事にしたい。高校生に日商１級を指導したい。」という思いが強くなりました。

大学卒業後，今度は蛭川先生の教員養成サークルにお世話になりました。当時は商業の教員の採用は厳しく，何度も挫折を味わいましたが，先生の温かいお言葉と，どうしても簿記塾のような活動を自分も実現したいという強い信念に支えられました。

あれから10年以上経ち，今私の目の前にいる生徒たちは，確固たる思いで簿記の勉強に励んでいます。まだまだ簿記塾の時のようには行きませんが，学生時代思い描いていた夢が形になっているのを感じます。

この日本全国に蛭川先生の，親父の，教育の遺伝子を受け継いだ先生方が大勢活躍されています。これからは私たちが引き継ぎます。皆一様に親父の背中を見て教師になっています。

すごく寂しくもありますが，安心してこれからの日々を充実させて下さい。本当に長い間お疲れ様でした。親父。